

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiku/index.html>

第 5 報
千葉県農林水産部
令和7年7月25日

すべての品種で出穂期が早まっています。 高温が続く見込みのため刈り遅れに注意

[生育概況]

関東甲信地方は7月18日に平年より1日早く梅雨明けし、7月は平年より気温が非常に高く推移しました。このため、出穂が早まり、4月20日植え「ふさおとめ」の出穂期は7月7日、「ふさこがね」は7月9日、「コシヒカリ」は7月14日で、平年よりも2～4日程度早くなっています。さらに5月1日植えの「コシヒカリ」の出穂期は7月17日で、平年より5日程度早くなっています。いずれの品種も葉色は平年並みからやや淡くなっています。

成熟期は4月20日植えの「ふさおとめ」が8月7日から、「ふさこがね」は8月12日から、「粒すけ」は8月19日頃から、「コシヒカリ」は8月20日頃からの見込みです。ただし、気象庁の1か月予報では気温が高い見込みのため、成熟期が早まる可能性があります。また、葉色の低下や水の不足は、さらに成熟期が早まる要因となるため、刈り遅れに注意しましょう。

表1 品種・植付時期別の成熟期の予測

品種	植付時期	成熟期予測			
		県北 (香取市)	九十九里 (横芝光町)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	8月12日	8月10日	8月7日	8月7日
ふさこがね	4月20日	8月16日	8月15日	8月12日	8月12日
コシヒカリ	4月20日	8月26日	8月24日	8月20日	8月20日
	5月1日	8月31日	8月29日	8月27日	8月27日
	5月10日	9月3日	9月3日	8月31日	8月31日
粒すけ	4月20日	8月23日	8月21日	8月19日	8月19日
アキヒカリ(飼料用米)	5月15日	8月30日	8月29日	8月27日	8月27日
夢あおば(飼料用米)	5月15日	9月12日	9月11日	9月10日	9月10日

※成熟期予測は、水稻作柄安定対策調査ほの調査結果と生育予測システムを基に、各品種の出穂期から成熟期の標準的な日数、気象条件等を加味して予測。

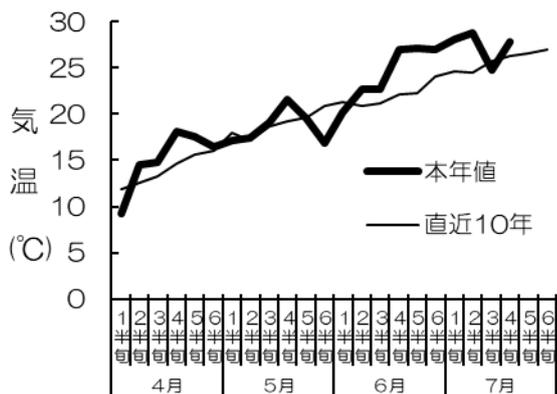


図1 日平均気温の推移(アメダス、佐倉)

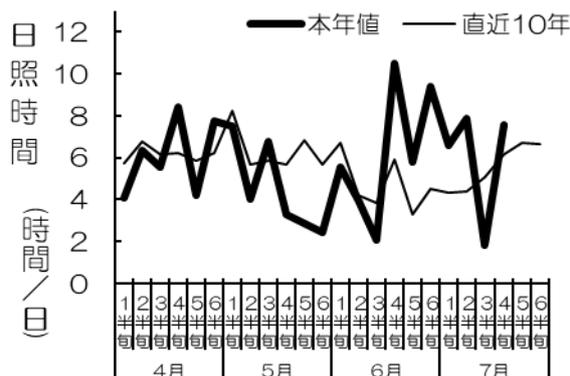


図2 日照時間の推移(アメダス、佐倉)

[これからの管理のポイント]

■ 斑点米カメムシ類が多発しています

病害虫発生予報第4号（農林総合研究センター7月16日発表）によると、イネカメムシの発生が「多」、大型斑点米カメムシ類の発生が「多」、カスミカメムシ類が「多」となっています。防除適期（多発生の場合）は、イネカメムシが「出穂始め～出穂期」、大型斑点米カメムシ類が成虫飛来期の「穂揃期（出穂期3日後）」と幼虫発生盛期の「出穂期から15日後頃」です。

共同防除を実施した地域においても、散布後に侵入した成虫やふ化した幼虫による被害が発生する場合がありますので、カメムシ類の発生状況によっては、追加防除を行いましょ。なお、地域全体で斑点米カメムシ類の密度を下げるため、飼料用米でも適切に防除を実施しましょ。（防除薬剤は、「水稻の生育状況と当面の対策」第4報参照）



病害虫発生予報



水稻の生育状況と当面の対策

■ いもち病・紋枯病の防除

同予報では、いもち病（穂いもち）の発生が「並」となっていますが、止葉など上位葉に病斑や、穂首や枝梗に枯れが見られる場合は、治療効果のある薬剤で防除しましょ。紋枯病は「多」であり、上位葉に進展するようなら防除しましょ。本年は縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカの発生が多いため、二番穂で越冬しないように早めに耕起しましょ。

表2 いもち病、紋枯病の主な防除薬剤

薬剤名	病害名	いもち病	紋枯病	使用時期	使用回数
ダブルカットフロアブル		○(予防・治療)		穂揃期まで	2回以内
ノンプラス 粉剤DL/フロアブル		○(予防・治療)		収穫7日前まで	2回以内
ブラシン 粉剤DL/フロアブル		○(予防・治療)		収穫7日前まで	2回以内
カスミン 液剤		○(治療)		穂揃期まで	2回以内
バリダシン 粉剤DL/液剤5			○	収穫14日前まで	5回以内
モンカットフロアブル			○	収穫14日前まで	4回以内

※農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょ。

■ 農薬の収穫前使用日数・飛散に注意

農薬を散布する際には、農薬に定められた収穫前使用日数に注意し、周辺へ飛散しないよう、以下の点に注意して農薬散布を行いましょ。また、収穫時期が早くなることが見込まれるほ場が近くにある場合は散布を控えましょ。

- 風向きに注意して、風の弱いときに散布する
- 散布の方向に注意する
- ドリフト低減ノズルを用い、適正な圧力で散布する

■ 品質低下を防ぐ水管理

出穂期3週間前から出穂期2週間後までは湛水管理とします。出穂期25日後までは田面の湿潤を保つため間断かんがいを続けます。今後はかなりの高温が予想されています。登熟期の水不足は、乳白米等の白未熟粒の発生による品質低下の原因となります。そのため、

落水は出穂期 25 日後以降とし、田面を固めコンバイン収穫に備えましょう。また、限られた農業用水を大切に使うため、漏水を防止し、かけ流しは止めましょう。

■ 適期収穫（良品質米の生産のため適期に収穫を）

早刈りは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させます。出穂期から収穫適期までの日数の目安は「ふさおとめ」で33日、「ふさこがね」で37日、「コシヒカリ」「粒すけ」で38日（「粒すけ」5月中旬植付は40日）ですが、高温が続くと成熟期が早まる可能性があります。正確な収穫適期は帯緑色籾歩合で判断しましょう。生育中庸な株の帯緑色籾歩合が15%（ただし、不稔籾を除く）の 때가収穫適期となります。（図3参照）また、本年は出穂が早いため、刈り遅れに注意しましょう。

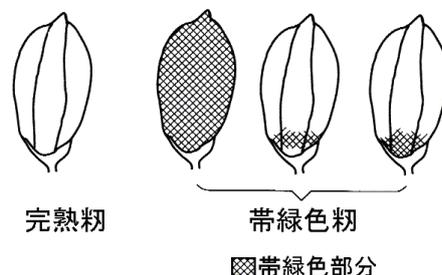


図3 帯緑色籾の見分け方
少しでも緑色の部分があれば、帯緑色籾として数えます。

収穫した籾を3時間以上炎天下に放置しておくと、品質が低下するので、収穫後は速やかに乾燥しましょう。

■ 乾燥は丁寧に、仕上げ水分は適切に

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥は平均毎時乾減率0.7~0.8%で行い、仕上げ水分は14.5~15.0%とします。

また、乾燥終了直後の籾の温度が高い状態で籾すりを行うと、肌ずれ米や胴割米が生じるので、十分に放冷し、温度を下げてから行いましょう。

■ 選別は 1.8mm 以上の網目を

外観品質を高めるため、選別は1.8mm以上の網目を使用しましょう。粒が小さい米の混入は玄米の粗タンパク質含有率を高め、食味を下げる要因になるので、選別の網目は1.8mm以上にしましょう。

■ 異品種混入の防止

異品種の混入を防止するため、品種切り替え時は、コンバイン、乾燥機、籾すり機等を丁寧に清掃しましょう。

■ 収穫後はすぐに耕うんを

令和5年9月の台風では、収穫直後に冠水し、稲わらが堆積したほ場が多く見られました。収穫後は速やかに耕うんを行いましょう。秋耕には稲わらの腐熟を促進し、次年度の還元障害（ガス沸き）の発生を抑制する効果があります。また、二番穂はイノシシ等の餌になりますので、鳥獣害対策の観点からも重要です。

■ 生産履歴記帳

「売れる米づくり」に栽培管理の記録は不可欠です。出荷する際には、集荷団体から「生産履歴」（栽培管理記録簿）の提出を求められる場合があります。

「生産履歴」を記帳することは、自己の経営の点検などにも重要な役割を果たすので、正確な記帳に努めましょう。

■ 飼料用米の収穫・乾燥・調製

○飼料用米の収穫適期

飼料用米の出穂期から収穫適期までの日数の目安は、「アキヒカリ」が40日、「夢あおば」が45日であり、帯緑色歩合は15～20%とします。

耐倒伏性に優れる「夢あおば」では、収穫適期以降、好天が続くと予想される場合は収穫を遅らせて立毛の状態乾燥（立毛乾燥）を進め、乾燥機の燃料コストの低減を図りましょう。

○飼料用米の乾燥・調製

飼料用米は主食用米と農産物検査規格が異なります。異物の混入などがなければ、ふるい分けの必要もありません。また、食味及び外観品質を考慮する必要がないので、区分管理の場合は乾燥時の温度をやや高めに設定して乾燥効率を上げましょう。

■ 飼料用米の適正出荷及び保管中の措置等について

○用途外使用の禁止

① 一括管理方式

基本的に契約数量を飼料用米として出荷します。

② 区分管理方式

原則、飼料用米として特定したほ場から収穫されたすべての米（ふるい下米を含む）を、飼料用米として出荷します。（図4）

※出荷数量は30kg単位ではありません。

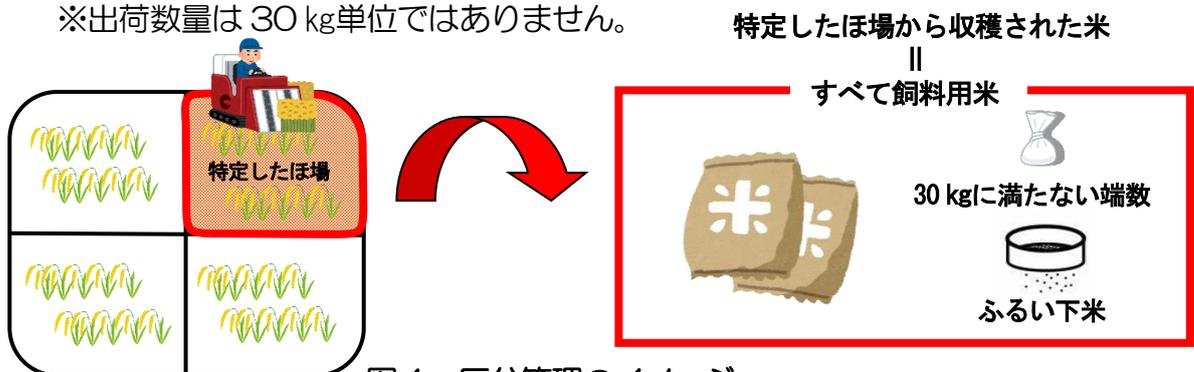


図4 区分管理のイメージ

○保管中の措置

用途ごとにパレットを分けるなど、他の米穀と区分して保管し、「票せん」による掲示をします。（図5）

※一括管理方式の場合は、飼料用米として特定された時点から他の米穀と区別して保管します。



図5 用途を示した票せんを掲示（食糧法遵守事項省令第3条）

○販売時の措置

包装等に、用途を示す^飼の表示をします。（図6）
（見やすい箇所への印刷、押印、シールの貼付、その他の方法により鮮明に表示します。）

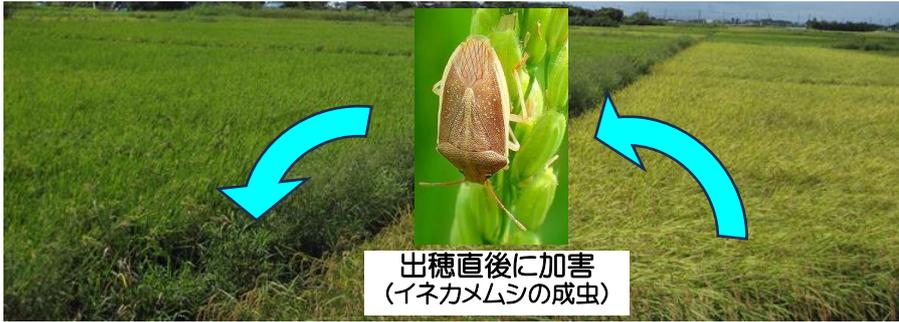
※JA等に販売委託している場合は、JA等が表示を行う場合があります。

※大きさ：外径直径30～40mm、肉幅2～5mm
肉色：青色または緑色



図6 包装に用途を表示（食糧法遵守事項省令第4条）

遅植えのほ場や飼料用イネ作付ほ場における斑点米カメムシ防除
 — 出穂期が遅いほ場への斑点米カメムシの集中に特に注意！ —



出穂直後に加害
 (イネカメムシの成虫)

■今年、イネカメムシ、大型斑点米カメムシ類、カスミカメムシ類の発生予想量が「多」となっているので注意が必要です。

■今後、出穂期を迎える遅植えのほ場や、飼料用イネ(飼料用米、WCS用イネ)作付ほ場に集中することが懸念されます。

遅植えほ場の出穂期(表2)を目安に、斑点米カメムシを防除し品質向上に努めましょう。

■近年、発生が多いイネカメムシは出穂直後の稲に飛来し、加害・産卵し、ふ化した幼虫も加害するため、出穂期前の粒剤散布又は出穂期のフロアブル剤散布が効果的です。

さらに、他の斑点米カメムシ対策としては、穂揃期から乳熟期の追加防除も必要です。

■遅植えのほ場で斑点米カメムシを防除する際は、4月植えのほ場の収穫時期と重なる可能性があるため、隣接ほ場への飛散に注意して薬剤散布しましょう。

飼料用イネ(飼料用米、WCS用イネ)は、使用可能な薬剤を確認して防除しましょう。

表2 遅植えほ場の出穂期の目安(県中央部の場合)

品種/移植日	5月10日植	5月20日植	5月31日植
ふさこがね	7月17日	7月24日	7月30日
コシヒカリ	7月25日	8月 1日	8月 7日
粒すけ	7月25日	8月 1日	8月 7日
(飼)アキヒカリ	7月15日	7月22日	7月28日
(飼)夢あおば	7月23日	7月30日	8月 6日
(W)たちあやか	8月15~25日頃		
(W)リーフスター	8月21~31日頃		

注1) 水稻生育予測システム「でるた」による7月23日現在の予測値。

注2) WCS用イネ品種「たちあやか」、「リーフスター」は飼料用イネの栽培技術(改訂版、平成30年3月)を基に推定。

早めの秋耕で稲わらのすき込みを

台風の大雨による稲わらの吹き寄せや、来年の移植後のガスわき(還元障害)を防ぐために、早めに秋耕を行い、稲わらをすき込みましょう。なお、ガスわき防止のために耕うんは深すぎず、15cm程度とします。



「令和7年度 病害虫発生予報 第4号(7月16日付)」は、こちらからご覧下さい。



イネカメムシに対する対策は、農林総合研究センターの第62回試験成果発表【作物部門】のYouTubeをご覧ください。(発表は、24分06秒から始まります)

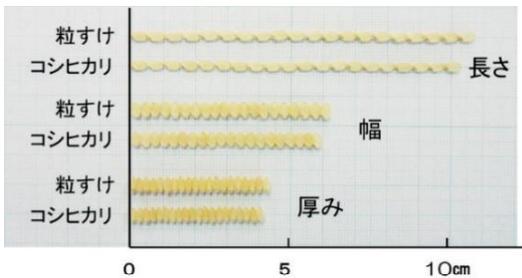
全農千葉県本部・千葉県 令和7年発行



県育成品種『粒すけ』を 営農体系に取り入れてみませんか？

栽培面の特長

- 大粒で、コシヒカリより収量が多い
- コシヒカリと収穫時期が同じ晩生品種
- コシヒカリと同等以上の良食味
- 茎が短く倒れにくく、安定生産できる



▲20粒並べると、粒すけの方が1粒大きい



コシヒカリ

粒すけ

特長を生かした現地での導入事例

(1) 「コシヒカリ」より倒れにくい特性を生かした取組

栽培地域：旭市 経営類型：水稻52ha(うち「粒すけ」1.8ha)
生産者：(農)おうめいワクワクお米クラブ

「コシヒカリ」は倒伏しやすく、倒伏してしまうと収穫の作業効率が悪くなります。一方、「粒すけ」は「コシヒカリ」より倒伏の心配がなく効率的な収穫が可能です。

台風や大雨等の心配を少しでも減らし、自分達の目指すワクワクするようなお米作りのため、色々な課題を解決する取組を進めており、その一環として「粒すけ」を導入しています。



(2) 「コシヒカリ」に代わる我が家の主力品種として

栽培地域：南房総市 経営類型：水稻15ha(うち「粒すけ」7ha)
生産者：遠藤 茂雄氏

かつての我が家の栽培品種はほぼ「コシヒカリ」でしたが、毎年のように倒伏することに悩んでいました。倒伏に強い品種の導入も考えたけど、「コシヒカリ」より食味は落としたい…そんな中で、倒伏に強いだけでなく良食味が特長の「粒すけ」と出会い、これだ!と思って、その年から全量切り替えてしまいました。

実際栽培してみて、とても作りやすいし、食味も収量も良い。とても満足しています。



(3) 良食味を生かした栽培と販売

栽培地域：佐倉市 経営類型：水稲20ha(うち「粒すけ」3ha)
生産者：清宮 正裕氏



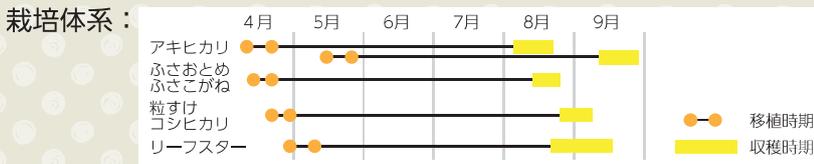
施肥量を調整して良食味の「粒すけ」を直売所向けに生産しており、「コシヒカリ」と同等の価格で販売をしています。
粒すけを購入いただく方からは、「ツヤがあっておいしい」との評価をいただいています。また粒が大きく厚みがあるのも魅力だと思います。
「コシヒカリ」に代わる品種になることを期待しています。



令和4年度千葉米食味コンクール
(粒すけの部) 千葉県知事賞(1位)受賞

(4) 販売多角化に向けた取組

栽培地域：香取市 経営類型：水稲52ha(うち「粒すけ」1.3ha)
生産者：(農)清里ファーム



当ファームでは直売所を中心に、「粒すけ」と合う料理等の紹介を行いながら販売しています。週末になると、地元の方だけでなく観光客も含め、多くの方にご購入いただいております。倒伏に強く作りやすいことから、作期分散にも貢献しています。

県の取組

▶ 認知度向上と販売促進

- ・粒すけPR動画を作成し、粒すけの認知度向上を図っています。
- ・県内小学校・特別支援学校(800校)のすべての児童等に県開発品種PRリーフレットを配布し、その時期に合わせて、県内の量販店において千葉県産フェアを開催することで、粒すけの販売促進を実施しました。



粒すけ紹介動画

▶ 千葉米食味コンクールでの「粒すけ部門」の新設

J A全農ちばが主催する「千葉米食味コンクール」に令和4年度より県が共催となり「粒すけの部」を新設しました。



▶ 一発肥料及び良食味展示ほの設置

農協と農業事務所が連携し、粒すけの一発肥料の試験ほを設置し、省力化に向けた取組を進めています。
また、粒すけの良食味栽培に向けた展示ほを県内数か所に設置し、農林総合研究センターと連携して、より良食味となる栽培方法について調査しています。

- ◆ 詳しい栽培方法については、右図QRコードからアクセスの上、参考としてください。
※県HPにも掲載しています!



(掲載内容) 粒すけの栽培暦